

## は し が き

この研究報告は、当教育センター科学教育課所員及び理科長期研修員の平成4年度の研究成果をまとめたものです。

今日の科学技術の進歩と経済社会の進展は、情報化、国際化など、社会のあらゆる分野に大きな変化をもたらしてきています。こうした中で、社会の変化に対応し、心豊かでたくましく、自ら考え、判断し、主体的に行動できる人材の育成を図ることが求められています。

新しい学習指導要領では、理科の指導において観察・実験の一層の重視がうたわれており、また、その実験も単に検証実験をおこなうのではなく、自ら考え、創意工夫していくことが望まれています。中・高等学校の理科の内容に課題研究が設けられたのは、生徒自らに観察・実験活動を進めていく場を与えることにより、仮説の設定、実験計画、データの解釈など、科学の方法の習得を通して、自然を科学的に調べる能力や態度、科学的な自然観の育成を意図したものと考えます。

生徒の学習意欲を高め、学力の向上を図るには、学ぶことに対し生徒自らが喜びと価値を見いだしていくような教材や地域素材の開発・研究、指導方法の工夫が必要であり、当教育センターにおける素材提供や教材の開発・研究もそこに焦点をあわせて進めています。本年度も、新学習指導要領に新しく取り入れられた内容に対応した研究、日常生活とかかわりの深い研究などをおこない、その成果を研究報告第149号にまとめました。是非とも一読され、教育実践に役立てていただければ幸いです。

なお、各論文の中には引き続き研究を要するものもあるかと思います。お気づきの点がありましたら率直なご指導、ご批判をお願いいたします。

最後に、これらの研究を進めるにあたり、ご助言をいただいたり便宜を与えてくださいました各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

平成5年3月

新潟県立教育センター所長

大 澤 正